

令和6年度補助事業の概要 (一般財団法人 海技振興センター)

1. 水先人養成支援事業

持続的で高質な水先サービスの確保に資するため、水先人養成支援対象者及び水先人養成施設(海技大学校水先教育センター)に対し、必要な支援を実施した。

養成の内容・流れ

商船乗船訓練  ※ 修業生を海技振興Cが雇用し、外航企業に就向して、航海士として乗船させ素養を習得	座学  ※ 水先教育Oにて、水先人に必要な知識等を習得	操船シミュレータ訓練  ※ 水先教育Oにて、水先人に必要な技能等を習得	水先実務等訓練  ※ 各水先区にて、実際の船舶に水先人と同乗し、必要な知識技能等を習得(シミュレータも活用)
---	---	--	--

修了 / 水先人

2. 海技の振興に関する調査研究事業 (IMO 等国際関係)

国・独法(JMETS)・当センターの三者間で緊密・有機的な連携体制を確保しつつ、船員の知識技能等に関する専門委員会を開催し、IMO 国際会議に対するわが国対処方針の取りまとめを行うとともに、IMO 会議への日本政府団としての参加を実施した。



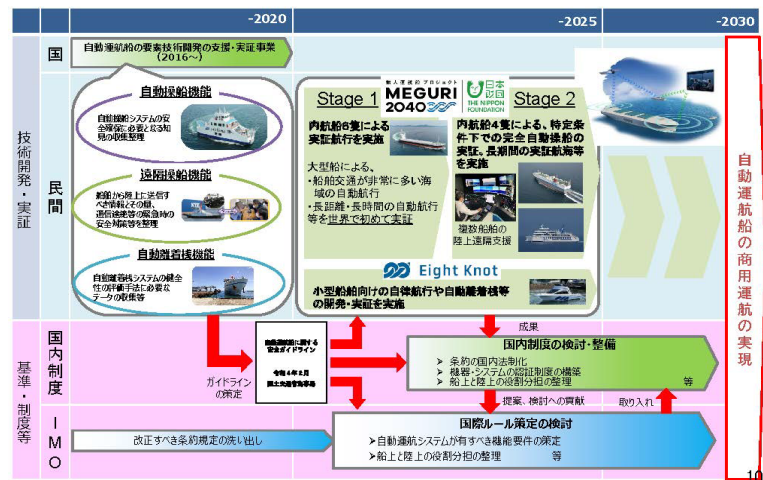
3. 海技の振興に関する調査研究事業（船員関係）

国の政策との連携・船主側ニーズを踏まえ、自動運航船の船員・陸上遠隔操縦者に必要となる知識・能力要件及びアンモニア・水素燃料船に乗船する船員の訓練要件について検討を行うとともに、外国人船員のストレス状況等アンケート調査を踏まえたストレスチェックシートを作成。また、その成果等について広く関係者等に周知しその活用等に資するため、海技振興フォーラムを開催した。

自動運航船の実現スケジュール(国土交通省資料)

外国人船員向けストレスチェックシート(一部)
(日本語原案)

自動運航船の商用運航の実現に向けた取組



4. 海技の振興に関する調査研究事業（水先関係）

国の政策と連携しつつ、関係者のニーズに対応すべく、水先側・船主側等で構成する「水先人の人材確保・育成等に関する検討会」を運営するとともに、パイロットボートからきょう導船への乗下船における転落事故発生時に迅速かつ確実な救助を可能とする設備や機能についての調査を実施した。

落水者救助用船尾側昇降機



救命訓練及び海中転落者救助訓練の様子
(伊勢三河湾水先区水先人会 HP より)

